
日本図書館文化史研究会

ニューズレター

第 102 号 2007 年 11 月 2 日

日本図書館文化史研究会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jalih/index.html>

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1

明治大学司書・司書教諭課程

郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

■■ 目 次 ■■

| | |
|---|----|
| 日本図書館文化史研究会創立 25 周年記念 2007 年度研究集会・会員総会盛会裏に終了 | 2 |
| 日本図書館文化史研究会創立 25 周年記念 『図書館人物伝』が刊行されました | 3 |
| 『予稿集』頒布のお知らせ | |
| 日本図書館文化史研究会 2007 年度第 2 回研究集会のご案内 | 5 |
| 日本図書館文化史研究会 2007 年度第 3 回研究例会のご案内 | 7 |
| 2007 年度研究集会 特別講演要旨 | 10 |
| 2007 年度研究集会 個人発表要旨 | 11 |
| 『ニューズレター』101 号の訂正 | |
| 毛利宮彦の謎 (高梨 章) | 13 |
| 運営委員会通信 | 15 |
| 事務局だより | 16 |
| 25 周年記念事業寄附金のお願い 会費納入のお願い 会員動向 | |

日本図書館文化史研究会

創立 25 周年記念 2007 年度研究集会・総会盛会裏に終了

日本図書館文化史研究会創立 25 周年記念 2007 年度研究集会・総会は、9 月 15・16 日の両日、同志社大学寒梅館地下 1 階会議室を会場に開催されました。今回の研究集会・総会には昨年度を上回る 63 名（うち非会員 9 名）が参加し、25 周年記念にふさわしい盛会となりました。

第 1 日目はまず、同志社大学図書館見学会が行われ、22 名が参加しました。この見学会も好評で、参加希望者が定員を上回ったため、一部の方は申込をお断りすることになりました。参加できなかった方にお詫び申し上げます。

見学会は、同館の井上真琴氏にご案内いただき、所蔵の貴重資料などを見学しました。井上氏の周到な準備により、充実した見学会となりました。井上氏をはじめ、同志社大学図書館の皆様にお礼申し上げます。

今回の研究集会では、前年度の会員総会での提案を受け、総会を第 1 日目に実施しました。総会は、宇治郷毅氏を議長に選出し、事務局より 2006 年度の活動・決算報告と、2007 年度予算（案）が提案され、それぞれ承認されました。

また、創立 25 周年記念事業の実施状況が報告され、創立 25 周年記念事業寄附金の募集を行うことが了承されました。この寄附金募集については、別紙のご案内をご覧ください。

会員総会終了後、25 周年記念特別講演が催されました。阪田代表の開会挨拶に続き、小川徹名誉会員、岩猿敏生名誉会員が講演を行いました。講演の要旨は、10 ページをご覧ください。また、この講演の様子は、『図書館文化史研究』第 25 号に掲載予定です。

特別講演終了後は、寒梅館 7 階レストランで懇親会（25 周年記念パーティ）が開催されました。懇親会参加者も 45 名を数え、盛大に催されました。懇親会は、渡辺信一氏の乾杯で開宴し、夕暮れの比叡山を一望する会場で、交流を深めました。

今回は、25 周年を記念して名誉会員に推戴された河井弘志・小川徹両氏と、岩猿敏生名誉会員に記念品が呈上されました。記念品の贈呈は、宮部頼子氏（立教大学）、宮崎真紀子氏（恵泉女学園大学図書館）、深井耀子氏（椋山女学園大学）にお願いしました。また、今圓子氏、安光裕子氏（西日本図書館学会）、尾崎稔氏（日外アソシエーツ）から、ご挨拶を頂戴しました。

第 2 日は、個人発表 4 件と、その後に運営委員会が行われました。個人発表の司会は、泉山靖人氏と三浦太郎氏が担当しました。各発表の要旨は、11～12 ページをご覧ください。また、運営委員会の議事要旨は 15 ページに掲載しました。

終わりにになりましたが、このたびの研究集会・総会の開催に際しお世話になりました渡辺信一氏、柳勝文氏、宇治郷毅氏に、心よりお礼申し上げます。

（事務局 小黒記）

日本図書館文化史研究会創立 25 周年記念

『図書館人物伝』が刊行されました

創立 25 周年記念事業の一環として、『図書館人物伝』を 9 月に刊行しました。その概要は 4 ページに掲載しました。会員の皆さまには、下記『図書館文化史研究』24 号とともに 9 月上旬に発送しました。未着の方は至急事務局までご連絡をお願いします。

追加購入をご希望の方は、事務局までお申し込みください。2 割引で購入できます。

また、本書は大変高額のため個人での購入は多くは望めないと見込まれます。つきましては、皆さまの所属機関などでの購入についても、ご協力をお願い申し上げます。

『図書館文化史研究』24 号も 9 月に発行され、上記『図書館人物伝』とともに 9 月上旬に発送しました。未着などの事故がある場合、事務局までご連絡をお願いします。24 号の目次は以下のとおりです。

○ シンポジウム

もり・きよし—生誕 100 年—

シンポジウム開催の趣旨

NDC の誕生とその成長過程を巡って—標準分類法の成立へ—

国立国会図書館 (NDL) 時代の もり・きよし

恩師もり・きよし先生の遺徳—青葉学園短期大学時代—

志保田 務

石塚 栄二

石山 洋

宮内美智子

○ 論文

射和文庫の蔵書構築と納本—近世蒐書文化論の試み I —

森清と草創期の鳥取県立鳥取図書館—1931~1934 年を中心に—

高倉 一紀

津村 光洋

○ 研究ノート

満州開拓地読書運動—中田邦造を中心に—

日本最初の女性図書館学留学生

呼物はロダン—美術の中の京都図書館—

鞆谷 純一

宮崎真紀子

高梨 章

『予稿集』頒布のお知らせ

今回の研究集会・総会の『予稿集』を、実費 (600 円) で頒布します (A4 版・本文 49 ページ)

郵送ご希望の方は、送料 (390 円) を加えた、合計 990 円をそえて (郵券可)、送り先の郵便番号・住所・お名前を明記して、事務局までお申し込みください。

日本図書館文化史研究会創立 25 周年記念

『図書館人物伝（仮称）』の概要

| | |
|--------|----------------------------------|
| ○ 書名 | 図書館人物伝：図書館を育てた 20 人の功績と生涯 |
| ○ 編者 | 日本図書館文化史研究会 |
| ○ 発行者 | 日外アソシエーツ（発売：紀伊國屋書店） |
| ○ 体裁 | A5 版 並製 本文 457 ページ（日外選書 Fontana） |
| ○ 価格 | 税込 4,800 円（本体価格 4,571 円） |
| ○ 出版年 | 2007 年 9 月 |
| ○ ISBN | 978-4-8169-2068-4 |

目 次

○ 日本人篇

- | | |
|------------------------------------|-------|
| 1. 覚え書き 秋田県立秋田図書館長佐野友三郎のこと | 小川 徹 |
| 2. 図書館員教習所設立の意義：乗杉嘉寿に焦点をあてて | 坂内 夏子 |
| 3. 帝国図書館長松本喜一について | 鈴木 宏宗 |
| 4. 森清の生涯と業績：間宮不二雄との交流を軸として | 石山 洋 |
| 5. 府中市立図書館長大西伍一 | 小黒 浩司 |
| 6. 情熱の図書館人、村上清造：薬学図書館から公共図書館運動への軌跡 | 参納 哲郎 |
| 7. 叶沢清介の図書館づくり：PTA 母親文庫まで | 石川 敬史 |
| 8. 半月湯浅吉郎、図書館を追われる | 高梨 章 |
| 9. 志智嘉九郎の業績について：レファレンスサービスを中心に | 伊藤 昭治 |
| 10. 「道の島」に本を担いで：奄美の図書館長・島尾敏雄 | 井谷 泰彦 |

○ 外国人篇

- | | |
|---|-------|
| 11. ヴァルター・ホーフマン小伝 | 河井 弘志 |
| 12. 児童図書館員リリアン・スミス小伝 | 深井 耀子 |
| 13. ジョン・ショウ・ビリングスの二つの生涯 | 藤野 寛之 |
| 14. ジョン・コットン・デイナの生涯と図書館哲学 | 山本 順一 |
| 15. アメリカ公共図書館における自動車図書館の先駆者メアリー・レミスト・ティッコム | 中山 愛理 |
| 16. ピアス・パトラーの図書館学における理論と実践：書物観を中心に | 若松 昭子 |
| 17. 戦後占領期初代図書館担当官キーニー | 三浦 太郎 |
| 18. 20 世紀アメリカのライブラリアンそして図書館学者ジェシー・H・シェラについて | 松崎 博子 |
| 19. セーチャーニ・フェレンツの生涯：ハンガリー国立セーチャーニ図書館の設立者 | 伊香左和子 |
| 20. 「はだしのライブラリアン」の足跡：ヘディッグ・アニューアールと東南アジア図書館界の発展 | 宮原志津子 |

日本図書館文化史研究会
2007年度第2回研究例会案内

2007年度第2回の研究例会を、下記のように開催します。是非ともご参加ください。

なお、研究例会・運営委員会終了後、会場近辺で懇親会の開催を予定しています。あわせてのご参加を期待します。

記

- 日 時 12月8日(土) 14時～16時
- 場 所 明治大学 アカデミーコモン8階 司書・司書教諭課程室
<http://www.meiji.ac.jp/campus/suruga.html>
※ アカデミーコモンの位置、交通等は6ページ掲載の地図
をご参照ください。
- 参加費 無料
- 申込方法 参加ご希望の方は、本研究会事務局まで、郵便、ファックス、
または電子メールでお申込ください。
- 申込締切 11月30日(必着) でお申し込みします。

【発表1】

- 発表者

河村 俊太郎 (東京大学教育学研究科)

- 発表題名

東京帝国大学図書館の管理運営～文学部心理学研究室を例に～

- 発表要旨

東京帝国大学において図書館は、大学の成立自体の特殊性もあり、独特な管理運営形態をとっていた。そこで本発表では、中央館以外の分館をも含めた当時の東京帝国大学図書館システム全体の管理運営形態について、大学の財政制度および管理運営制度、さらには文学部心理学研究室に残されていた分館運営に関わる史料を手がかりに検討を行う。そして、得られた知見から、大学図書館が東京帝国大学全体の中で得ていた地位、さらには、東京帝国大学図書館をその雛形としていた日本の大学図書館が大学全体の中で得ていた地位、これらがどのようなものであったかについて考察を加える。

【発表2】

○ 発表者

膽吹 覚 (福井大学留学生センター)

○ 発表題名

藩校の蔵書目録の研究—滋賀・福井・石川・富山を対象として—

○ 発表要旨

藩校の蔵書目録は、藩校の文庫の実態、並びに、藩校の文庫に於ける分類意識を知り得る貴重な史料であるにも関わらず、今日まであまりその研究が進んでいないようである。本発表では、題目に掲げた4県の藩校を対象として実施した調査結果に基づいて、藩校の蔵書目録の作成目的、作成者、書型、記載事項、収載書籍数、分類法、藩校の学問との関係、奇書珍本、といった観点から、藩校の蔵書目録の総合的な分析を試みたい。

会場案内



日本図書館文化史研究会

2007 年度第 3 回研究例会のご案内

2007 年度第 3 回研究例会を、西日本図書館学会との共同開催で、下記のように実施することになりました（西日本図書館学会は、2007 年度図書館学セミナーとして実施します）。

例会終了後には、懇親会を共同開催します。また、例会翌日にはオプションルツアーを計画しました。多くの方の参加を期待します。

なお以下のご案内は、2007 年 10 月時点のものです。今後変更の可能性があることをご承知おきください。変更等については、『ニューズレター』などで随時お知らせします。

記

- 日 時： 2008 年 3 月 1 日（土） 13：45～17：15
 - ◆ 当初の予定より、日程が 1 週間繰り上がりましたので、ご注意ください。
- 会 場： 山口県立山口図書館 1 階レクチャールーム
 山口市後河原 150-1
<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>
- 交 通： JR 山口線山口駅より徒歩 20 分、または美術館前バス停より徒歩 1 分
 - ◆ 東京、大阪方面からの交通案内を、9 ページに掲載しました。
- 懇親会費： 5,000 円
- 申込方法： 事前申込制とします。当日参加はご遠慮ください。
 次の事項を明記して、下記までに、はがき、ファックス、または電子メールにてお申し込みください。
 - ◆ 氏名（ふりがな）、所属、懇親会参加の有無、宿泊斡旋希望の有無、オプションツアー参加の有無
- 申 込 先： 〒321-3295 宇都宮市竹下町 908
 作新学院大学 司書・司書教諭課程 小黒 浩司
 電子メール：oguro@sakushin-u.ac.jp
 ファックス：028-670-3671
- 申込締切： 2008 年 1 月 31 日（必着） でお願ひします。
- プログラム
 - 13：00- 受付開始
 - 13：45-14：00 開会挨拶
 - 14：00-15：00 特別講演 河井 弘志（本研究会名誉会員）
 - 15：15-17：15 研究発表

【発表1】

- 発表者
田澤 明子（山口県立山口図書館）
- 発表仮題名
田村盛一と山口県立山口図書館

【発表2】

- 発表者
上野 善信（山口県立山口図書館）
- 発表仮題名
伊藤新一文献目録について

【発表3】

- 発表者
福永 義臣（前九州国際大学教授）
- 発表仮題名
学校図書館の先覚者たち－伊藤新一を中心に－

【発表4】

- 発表者
小川 徹（本研究会名誉会員）
- 発表仮題名
法政大学図書館所蔵佐野文夫文庫中の佐野友三郎旧蔵書について

17：15-17：30 閉会挨拶

18：15-20：15 懇親会

- ◆ 会場： 山口市湯田温泉「割烹 きむら」
山口市湯田温泉 3-3-13

<http://www.h-kotobuki.net/kimura.html>

TEL 083-922-3800 Fax 083-921-0260

- ◆ 懇親会場へは、タクシーで移動します。所要時間は 15分程度です。

宿泊の斡旋について

今回の例会については、宿泊の斡旋を行いません。なお、懇親会会場とホテルは同じ場所です。

- 斡旋宿泊先 プラザホテル寿（山口市湯田温泉 3-3-13）
<http://www.h-kotobuki.net/index.php>
TEL 083-922-3800 Fax 083-921-0260

- 宿泊料金 素泊まり 5,400円、朝食付き 6,400円

宿泊の斡旋を希望される方は、例会の申込とあわせて、事務局までお申し出ください。直接ホテルに宿泊の予約をされた場合、上記の特別価格は適用されませんので、ご注意ください。

オプションツアーのご案内

上記第3回例会の翌日に、山口県立山口図書館、ならびに山口県文書館の見学会を行います。あわせてのご参加を期待します。

1. 日 時： 2008年3月2日（日） 午前10時～12時
2. 場 所： 山口県立山口図書館、山口県文書館
3. 内 容： 県立山口図書館の書庫、文書館の書庫、歴史的な図書館用品などの見学
4. 集合時間： 午前9時50分
5. 集合場所： 県立山口図書館玄関前
 - ◆ 宿泊先から県立山口図書館までの移動方法については、現在検討中です。

◎ 会場への交通案内

◆ 飛行機を利用する場合

東京羽田空港－（飛行機）－山口宇部空港－（特急バス）－JR 新山口駅－（JR 山口線）－JR 山口駅

| | 東 京 | 山口宇部 | 新山口 | 山 口 |
|---------|-------|----------------|----------------|--------------|
| ANA 691 | 6:50 | 8:30 8:50 | 9:24 9:36 | 9:56 |
| JAL1643 | 7:35 | 9:10 9:25 | 9:59 10:14 | 10:28 |
| ANA 693 | 10:05 | 11:45 12:00 | 12:34 13:02 | 13:16 (※) |

(※特急スーパーおき4号を利用)

◆ 新幹線を利用する場合

東京－新大阪－新山口－（JR 山口線）－山口

| | 東 京 | 新大阪 | 広 島 | 新山口 | 山 口 |
|---------------------------------|------|----------------|----------------|----------------|-------|
| のぞみ5号→新大阪、もしくは広島で、下記ひかり455号に乗換え | 6:50 | 9:27 9:29 | 10:52 | | |
| ひかりレールスター455号→新山口で山口線普通列車に乗換え | | 9:35 | 11:09 11:10 | 11:43 12:10 | 12:26 |
| のぞみ11号→新山口で特急スーパーおき4号に乗換え | 8:13 | 10:49 10:51 | | 12:53 13:02 | 13:16 |

日本図書館文化史研究会創立25周年記念

特別講演要旨

講演①

小川 徹

○ 講演題名

日本古代の図書館を考える

○ 講演要旨

次のテーマで話しました。ひとつは、今大量に発掘されている木簡のこと。これまで簡の上下に穴をあけて冊とする事例は見つかっていませんが、冊になっていなくても書物の原型と考えてよいものがあるのではないかと、ということです。

二つ目は奈良時代の寺院の経蔵の話。一口に経蔵といっても、寺院の経蔵もあれば、学僧が自房に經典を私有していたばあい、また例えば東大寺の華嚴宗・律宗・法相宗などの宗所の経蔵とさまざまであったこと。あわせてその宗所で經典の貸出などに携わりながら、經典研究に励んでいた僧侶がいたこと、今の言葉でいえば、司書であり、かつ研究者であった、そういう学僧が遠く奈良時代にいたことを紹介しました。

講演②

岩猿 敏生

○ 講演題名

図書館文化史と図書文化史

○ 講演要旨

歴史研究では個別史研究と通史研究が関連しながら発展しなければならないが、通史研究の骨格となるのが時代区分である。図書館文化は図書文化を前提とするので、図書文化を担当した階級の時代的相違に基づいて日本図書館史の時代区分をし、日本図書館史を構築してみたが、残された問題は多い。

一つは明治維新以降の近代図書館史の時代区分の問題である。次に従来の日本図書館史では、各時代ごとにどのような図書館が成立したかの叙述に留まり、その活動にふれ得ていない。図書館史の内容の問題の一つである蔵書の問題については、各種の目録研究が期待される。

さらに今後の問題として、図書の脱物質化の問題があるが、ヨーロッパ諸国語のビブリオテークが16世紀以降、図書の置き場という従来の意味のほかに、書誌の意味即ち図書館の脱物質化を意味したことは、今後の図書館を考えるに当たってなんらかの示唆を与えられると思われるが、この点については時間の関係もあり十分ふれ得なかった。

2007 年度研究集会個人発表要旨

発表①

石川 賀一（筑波大学図書館情報メディア研究科）

○ 発表題名

東北帝国大学時代の田中敬に関する一考察—『図書館教育』を手がかりとして—

○ 発表要旨

今発表では、田中と沢柳政太郎との関係、田中の処女作『図書館教育』の再評価を中心に発表を行った。田中は『図書館教育』で図書館の教育的機能によって社会教育と家庭教育を学校教育と密接に連絡させ、三者に通じた一貫の原理に基づいた教育システムを組織することを試みた。しかし同書では具体的に述べられておらず、またこの点についてこれまで取り上げられることがなかった。本研究者は、義務教育拡張と大学教育普及、大学と公共図書館の連携による社会教育の拡充、職業に関する教育による学校教育と社会教育の結合といった要点を導きだし、田中のいう教育システムは学習社会を形成するものであったことを明らかにした。そして田中の教育観は当時の学制改革に通じるものであり、沢柳の教育観とも共通するものであった。また田中の図書館教育論は図書館界より教育界で評価されていることにもふれた。

発表②

松崎 博子（筑波大学図書館情報メディア研究科）

○ 発表題名

ジェシー・H・シェラが学部長を務めたウェスタン・リザーブ大学ライブラリー・スクールの歴史

○ 発表要旨

アメリカ合衆国オハイオ州クリーブランドに存在した（ケース・）ウェスタン・リザーブ大学ライブラリー・スクール（1904年創設、86年廃止）の歴史について、シェラ学部長時代以前（1904-52年）、シェラ学部長時代（1952-70年）に分け、主として前者に重点を置いて発表した。シェラ学部長時代以前では、クリーブランド公共図書館と深く関わる William H. Brett らスクールの教員、スクールに縁のあった Charles C. Williamson、Andrew Carnegie らの活動と貢献について検討した。シェラを中心として区分した2つの時期を意識しての仔細な歴史的検討から、前期にはシェラ学部長の時代にみられた画期的な活動の萌芽が確認できたように思う。

発表③

津村 光洋（鳥取大学附属図書館）

○ 発表題名

もり・きよしの鳥取県立鳥取図書館時代

○ 発表要旨

NDCの考案者である森清（もり・きよし）が、鳥取県立鳥取図書館に在職した1931年から1934年を中心に、鳥取図書館の活動について森に焦点をあてながら報告した。

全国的に図書館活動が停滞し始めていたこの時期、鳥取図書館は、主任司書の河野寛治のもとで、「鳥取読書倶楽部」「館友会」など閲覧者の団体活動や巡回文庫の実施など、大正期の図書館活動の成果を受け継いだ意欲的な活動を展開していた。また、新聞記者など地域の文化人たちのたまり場となり、これらの活動を指して「図書館の屋根の下」という言葉が使われた。こうした活動の中で、森がその後、図書館人としてNDCの普及や育成に関わってゆく基盤が培われ、また森自身もその活動の中で大きな役割を果たしていた。

発表④

高野 彰（跡見学園女子大学）

○ 発表題名

大学図書館溯源史—帝国大学図書館成立の研究—

○ 発表要旨

帝国大学は明治19年3月に帝国大学令によって設立された。しかし「図書館監督」（後の後の図書館長）には図書館を統轄する全権限が付与されず、最終統括権は大学の総長が握っている。総長は法科大学（法学部のこと）長も兼ね、「国家の須要」に応えることが求められていた。法律の知識を持った官吏の養成である。この目的を達成するには法科大学図書館の設置が最適であるが、大学は学内に帝国大学図書館しか認めないため、総長が図書館の最終的な管理権を掌握できるように図書館利用規則を制定し、「国家の須要」に応じられる体制を作ったのである。図書館の利用規則は学内の特殊事情を反映した内容であったにもかかわらず、後続の大学図書館はこれを手本にして規則を制定する事になる。この規則の及ぼした影響は余りに大きい。

『ニューズレター』101号の訂正

ニューズレター前号（101号）の記事中に、次のような誤記がありました。お詫びして訂正します。

| | 誤 | | 正 |
|--------|-----------|---------------------|------------|
| 8 ページ | 下から 11 行目 | 「自動車図書館 <u>文庫</u> 」 | → 「自動車図書館」 |
| 13 ページ | 下から 3 行目 | 「 <u>ナム</u> コ機」 | → 「ナトコ機」 |

毛利宮彦の謎

高梨 章（関東学院大学）

『ニューズレター』No.100の「第3回研究例会報告」に中西先生の「早稲田大学図書館員毛利宮彦の経歴と業績をめぐって」について、短い紹介がなされている。その文中に、「早稲田大学図書館を退職した理由についてはいまだ不明確である」とあったので、一文を草したい。

毛利宮彦（1887-1957）は早大図書館奉職中、大正4年にアメリカへ派遣され、一年後に帰国。帰国後も仕事に関しては順風満帆であったはずなのに、大正6年辞職した。

中村初雄氏が『図書館雑誌』（vol.51, no.3, 1957.3）に毛利の経歴を記していたが、「しかし先生は何故か、帰朝後早大図書館には短期間しかおらず、大阪毎日新聞社に入られた」と記すのみ。毛利氏本人も、その「図書館回顧」の「まへがき」に、米国への留学の後には、大阪毎日新聞社の記者生活を記すばかりで、早稲田退職の経緯については触れていない。（『図書館雑誌』vol.42, no.3, 1948）。

その毛利の影が見えたのは、『未刊・逍遙資料集 一』（逍遙協会／編集・発行1999）からである。その中の「逍遙日記」大正6年の項から引き抜いてみる。

- ① 1月7日 「図書館の件、湯浅の件、毛利の件」
- ② 2.6 「毛利来、執務上の事忠告」
- ③ 4.28 「毛利の母来／市島を招き 宮彦の件協議」
- ④ 5.29 「毛利宮彦、彼の事件後はじめて来、訓戒を与ふ」
- ⑤ 7.20 「毛利来」
- ⑥ 9.6 「湯浅来る、主として毛利の件」
- ⑦ 9.26 「竹村誠也へ毛利の件をいひやる／毛利来 辞職を勧む」
- ⑧ 10.3 「毛利 辞表を出したり、近々帰国云々とて来」
- ⑨ 10.18 「毛利宮彦来、廿日名古屋へ帰る云々」
- ⑩ 10.27 「渡辺霞亭へ毛利推薦の書を送る」
- ⑪ 11.5 「毛利来、近日大阪へ移住云々」

誰ならずとも、③、④と⑦に眼をひかれるだろう。「彼の事件」とは何か？「辞職」を勧められるほどの事件とは一体何なのか？

ブログでささやかれたのは、①と⑥から、湯浅吉郎（半月）との衝突説だった。

だが、衝突説はやはり、根も葉もない「妄想」である。事の真相は、実に単

純明解だった。『やまと新聞』にあられもなくそれは出ている。「芸妓上りの女優」という見出しのもとに、大正6年4月1日(3月31日夕刊)のことである。

先般新富座における芸術座一派の「艶殺し」に船宿清治の女房役をつとめ、まずい評判をとった「陽子」という女優がいた。この女、もと神楽坂の芸者家三武の金太郎といって、文学芸者をもって自らひけらかし低い鼻をふくらまして恐縮をしたものだが、その猛彩ぶりにひっかかったのが、慶応文科出の若紳士(阿部達夫)。1200円という大金で新升武蔵から落籍させ、さらにその上に400円という看板料を出させて、三武なる芸妓家を出させたが、根が飛び上がり者の金太郎。見よう見まねの「劇」というものがやってみたくて、阿部をとつちめ、須磨子の芸術座に加入。しかも、須磨子の妹分という振れ込みで車の上にふんぞりかえったのだが、それはさておき、去る2月初め頃のこと。

「早稲田大学図書館事務員毛利宮彦(三一)と云ふ色師が予て金太郎を覗つてみたが芸術座一件から段々深間になり到頭金太郎は於艶殺しの楽になつた十六日に芸術座に渡す金三百円を阿部から預つたまゝ毛利と行方を晦まし毛利は図書館に病欠欠勤届を出し居れるが何んでも両人は此頃名古屋の或る旅館へ逃げ込んで居るとやら早稲田の図書館もよい館員を持つたもの須磨子も頃合な妹分を持つた(も)のだ」。

女優の名を三武陽子と言った。東京朝日新聞はこのやまと新聞とは異なる内容で3月31日に報じている。陽子が神楽坂の旦那から数百金の運動費を出させたのをその妻女が聞き知り、暴れこんでの大乱痴気に、「エ、面倒だと両人手に手をとつて名古屋へ道行」と。これでは旦那と道行と取れてしまうが、やまとが正しかろう。名古屋は毛利の生まれ故郷である。

谷崎潤一郎原作「お艶殺し」は、弟の精二と抱月の共同脚色で、「お艶と新助」という演題のもとに、「ポーラ」及び「エヂポス王」と共に、新富座において3月9日から16日にかけて上演された。「お艶と新助」は評判はよくなかったが、「問題の三武陽子は船宿の女房一役だけを洒々しやあしやあと演つてのけたが叩込んだらよくなるだらう」と朝日は寸評した(3.13)。

渡辺霞亭^⑩は、大阪朝日新聞の売れっ子小説家である。おそらく逍遙は霞亭に毛利の職を推薦依頼したのであろう。霞亭のラインから大阪毎日新聞記者に決まったのかどうかは定かではない。逍遙はこの就職に世話をやいたのみではない。実は、その前の毛利の留学にも世話をやいていた。アメリカの大学で教鞭をとる朝河貫一(歴史学者)に依頼したやりとりが「逍遙日記」に見えている。

後年、大阪毎日新聞をやめたあとの早稲田への復職についても逍遙は動いたが、これは不調に終り(昭和2)、さらに毛利が立ち上げた図書館事業研究会が窮迫に陥ったときも、逍遙のもとに彼は援助を求めに現れている(昭和6)。

運営委員会通信

■ ■ 次回運営委員会について ■ ■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

記

- 日 時 12月8日(土) 16時～17時30分
- 場 所 明治大学
- 内 容 1. 2007年度第3回研究例会について
2. 2008年度研究集会・総会について
3. 25周年記念事業について
4. 『図書館文化史研究』第25号について

ほか

■ ■ 前回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2007年9月16日
場所：同志社大学寒梅館

以下のような事項について、協議しました。

1. 2007年度研究集会・総会について
2. 『図書館人物伝』について
3. 25周年記念事業予算について
4. 『図書館文化史研究』第24号について
5. 『ニューズレター』第101号について
6. 『ニューズレター』第102号について
7. 2007年度第2回研究例会について
8. 2007年度第3回研究例会について
9. 2008年度研究集会・総会について
10. 会員動向
11. 次回運営委員会について

事務局だより

■■ 25周年記念事業寄附金のお願い ■■

創立 25 周年記念事業寄附金募集のご案内と振替用紙を同封しました。会員の皆様のご理解とご協力をお願いします。

■■ 会費納入のお願い ■■

2007 年度会費をまだ納入されていない方は、至急ご送金ください。振替用紙は前号に同封しましたが、見当たらない方は事務局までご請求ください。

■■ 住所変更等のご連絡をお願いします ■■

研究会からの刊行物の送り先などについて変更が生じた場合、あるいは封筒貼付の宛名ラベルの記載が不正確な場合、早めに事務局までご連絡ください。

■■ 会員動向 ■■

新入会

- 米谷 優子（小松短期大学）
松田 泰代（国際日本文化研究センター）
研究分野： 近世江戸における商業出版
柳 勝文（龍谷大学）
真野 博和（名古屋大学附属図書館）
研究分野： 日本近代図書館史、中田邦造について
松井 宏（神戸学院大学）
研究分野： 戦前期神戸での図書館活動
杉本 節子（相愛大学人文学部）
研究分野： 資料組織 情報検索 医療情報学
大滝 則忠（東京農業大学）
研究分野： 近代日本図書館史、図書館法制
河村俊太郎（東京大学教育学研究科）
研究分野： 東京帝国大学を中心とした日本の大学図書館史
山田 美幸（熊本学園大学）

勤務先変更

- 米井勝一郎（愛知県立大学学術情報課）
三浦 太郎（明治大学文学部）